

三重県支部

中小企業診断士のための診断実践ハンドブックの作成

中小企業診断士の資格更新要件の変更に伴い、資格更新のためには診断士各自が実践的な診断実務を行う必要があります。今後、支部事業においても窓口相談事業やプロコン育成塾、診断実績研修など実務ポイント取得支援を目的とした事業が順次実施されていきます。その際、実践経験が少ない診断士が、スムーズに中小企業経営者と対峙し、各自の診断実務スキルの向上を図れるようにするには、現場経験豊かな診断士からの経験に基づいた実践的なアドバイスを受けることが有益です。今回作成した「診断実践ハンドブック」は、このような趣旨に基づいて編集を行ったもので、知識中心のハンドブックよりも、現場経験からのワンポイントアドバイス、使える診断手法、診断ツール、現場での心構え、実施事例などを中心として、より実践的な内容となることを目指して作成を行いました。

編集の方法として、各診断分野の最初に診断プロセスを記載するようにしました。診断士は、診断プロセスを参考に現場において診断を実施し、掲載してある留意点やチェックリスト、ツールを利用することで診断の便宜が図れるようにまとめてあります。

第1章「企業診断の心構え」では、企業診断に向かう際に心がけるべき事柄を実践的な視点からまとめています。第2章「経営戦略診断」では、最初に全体的な視点から経営戦略診断を行っていきます。さらに詳細に調べる必要がある分野については第3章以降の個別課題診断を行っていきます。第3章～第8章までは、順次「マーケティング診断」「生産管理診断」「人事労務診断」「財務診断」「情報化診断」「ISO診断」と個別診断分野のアドバイス事項をまとめています。さらに第9章では、短時間で相談者に回答を行う必要のある「窓口相談」を実施する際の留意点をまとめ、第10章では診断士として理解しておくべき「公的支援制度の活用」のポイントを記載しています。第11章～第13章までは、企業診断事例分析として「製造業事例」「小売業事例」「建設業事例」を、それぞれ事例、設問、解答という形式でまとめてあり、診断士の研修会やセミナーなどを開催したときの教材として活用できる形に編集してあります。

「診断実践ハンドブック」の編集を通じて、中小企業診断士の実践の知恵をプロセス化してツールとしてまとめる試みを行いました。個々の経験や技量に負うところが多い企業診断の実務をプロセス化することは、入門レベルのものにとって参考となり有意義であると思われませんが、実践では型にはまった手法やツールを杓子定規に当てはめても良好な成果に結びつけることは難しいと思われれます。当ハンドブックに記載してある事項は、基本的なフレームワークととらえていただいて、診断士個々の個性や視点、考え方をどんどん取り入れて個人のオリジナルな診断手法へと昇華していただく必要があります。